

## 【第1号議案】平成29年度事業報告

### 1 事業の成果

幣法人の活動も多岐にわたるようになり、まちづくりの担い手としての認知や期待も深まる中、平成29年4月より、登米市が設置する「とめ市民活動プラザ」の運営を担うことになった。登米市型中間支援組織として各種支援業務と併せ、コミュニティ組織や市民活動団体、企業、市民、行政等による「協働のまちづくり」の推進を図るために、各セクターの連携を強化するための活動を展開した。施設利用者数においては前年比約3%のプラスに留まったが、平成30年度も同施設の周知に力を入れ、より多くの団体の役に立てるよう努力していきたい。

平成29年度は、とめ市民活動プラザの運営を中心とする「中間支援事業」の他、震災後の住民自治の実現を目指す「コミュニティサポート事業」、「女性支援事業」、「就業・起業支援事業」、さらには、登米市の魅力を首都圏において発信し、ヒト・モノ・カネを呼び込み地域経済を活性化させるための「シティプロモーション事業」を展開した。7月に開設された「登米市移住・定住サポートセンター」や目黒区自由が丘の商店街組織等と連携し、移住・定住推進連携事業を実施し、一定の成果を得ることができた。

登米市と隣接する南三陸町では「南三陸さんさん商店街」がかさ上げた土地に移転オープンし、地域住民の生活を支える店舗も増え、少しずつではあるが、街の復興は進んでいるようである。幣法人としては、住民の復興へ向けた活動を後押しすべく「居場所づくり・生きがいづくり・しごとづくり」の3つの取り組みを通し、各種講座や相談対応を実施した。復興や地域の活性化を願い主体的に活動したいとする地域住民やNPO、商店街、復興住宅居住者等をつなぎながら、事業を企画・運営した結果、新たな居場所の開設やコミュニティづくりの一助とすることができた。

「手仕事支援講座」や「マルシェ事業」についても一年を通じて開催し、コミュニティづくりのサポートを実施した。「アルテラスおおあみ」に整備された「アルテラスキッチン」や「タウンネットcafe」を活用し、南三陸と登米の食文化の違いを楽しめるプログラムを用意して料理教室や食事会を数多く実施した。地元住民と災害公営住宅居住者の住民が顔を合わせ、お互いの地元食を通し親交を深めることができた。

一方、昨年に続き、地域に根差した事業での起業を志す方や、個人で開業を目指している方、起業の意思がありながらも経済的理由等で実現できていない方々に対し、創業を実現させるための支援事業を実施した。店舗設備や資金調達、補助金申請等、具体的なサポートを行った結果、「アルテラスおおあみ」内の未利用室を活用して、一者の創業を実現させることができた。また、一年を通して毎月最終金曜日にアルテラスおおあみ「ナイトマーケット」を開催し、チャレンジショップやチャレンジカフェ出店者の集客促進を支援した。個人消費喚起キャンペーン「プレミアムフライデー」を活用したこの試みは、地域の賑わいづくりや起業の促進に寄与

した他、出店者同士の横のつながりを深める効果があり、一つの教育の場とすることができた。

「とめ女性支援センターhug」の運営については、昨年同様、イベントやワークショップを中心に被災地の女性の就業促進や仲間づくり、コミュニティづくりを支援する事業を実施した。とくに、子育て女性の就職支援が手薄な環境下にあることから、同センターが、自立的・継続的に就職支援を行う民間拠点として機能するよう育成したいと考え、宮城県子育て女性就職支援拠点育成補助金を活用して、専任スタッフを配置し、専門的なキャリアコンサルティング技術を取得する為の講座を受講させる等、就労支援員の育成に努めた。

利用者の自主的な活動も増える中、同センターの開設当初から設置してある「カフェつむぎ」については、コミュニティカフェを運営したいとの申し出があった団体に平成30年4月以降、その運営を譲渡することとした。これまで以上に利用者の幅が広がるよう後押ししていきたい。

平成29昨年度に実施した数々の事業は、弊法人の事業内容の重要性をご理解いただいた登米市や宮城県、日本NPOセンター、日本たばこ産業株式会社、浦上食品食文化振興財団様等からの助成金その他、寄付、会費を通じて資金を提供していただいた皆様、そして何より「地域の元気を取り戻そう！」のスローガンのもと、一緒に汗を流していただいた地域住民やボランティアの皆さんの支援により実施されたものである。ご支援を頂いた皆様に心からの感謝を申し上げるとともに、平成30年度以降の活動も期待に応えるべく、地域課題の解決と新たな価値の創出に向け、スタッフ一丸となって取り組んでいきたい。

## 2 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

事業(1)	はじめの一步サポート事業	実施日時	平成29年7月1日～ 平成30年3月31日
実施場所	登米市、南三陸町、気仙沼市	従事者数	6人
受益対象者	・登米市118人・南三陸町138人	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	「居場所づくり・生きがいづくり・しごとづくり」の3つの取り組みを通し、復興に向けたはじめの1歩を踏み出すための、各種講座や相談対応を実施し、地域における課題を自ら理解し、解決していく住民主体の復興を支援する。		
事業内容	<p><b>1. 居場所づくり事業「コミュニティカフェ」開設講座</b></p> <p>&lt;南三陸会場&gt;</p> <p>実施日時：①平成29年9月29日②10月18日③11月10日 各10:00～12:00</p> <p>参加者数：①事務局1名、講師1名、スタッフ2名、受講者6名 合計10名          ②事務局1名、講師1名、スタッフ2名、受講者12名 合計16名          ③事務局1名、講師1名、スタッフ2名、受講者10名 合計14名</p> <p>事業内容：①「地域の魅力と地域の課題を知るワーク」を実施した。南三陸町さんさん商店街での多様な店舗活用事例を参考にしながら、商店街に於ける居場所づくりの新しいアイデア出しを行った。受講生の発案によるミニイベントを実施した。</p> <p>②事例に基づくコミュニティカフェの概要を説明した後、「自分の強み・弱みワークシートづくり」を実施した。受講生が自ら企画、立案したコミュニティカフェを通じた、自分自身を改めて理解するワークショップを行い、個々の強みや弱みを理解する講座とした。</p> <p>③移動講座「自分の思う居場所ってどんな場所」を気仙沼市の生活支援プロジェクトKを会場に実施した。気仙沼市階上地区のコミュニティづくりと現在の階上地区の地域コミュニティの様子を伺った。人口流出をはじめとする様々な課題に対し、若い世代との交流推進を図りながら、いかに地域を活性化させるかを学ぶ講座とした。</p> <p>&lt;登米会場&gt;</p> <p>実施日時：④平成30年1月6日 ⑤平成30年1月27日 各10:00～12:00</p> <p>参加者数：④事務局1名、講師1名、スタッフ2名、受講者8名 合計12名          ⑤事務局1名、講師1名、スタッフ2名、受講者6名 合計10名</p> <p>事業内容：④「地域の魅力と地域の課題を知ろうワーク」を実施し、コミュニティカフェ等の地域に於ける居場所の必要性やコミュニティカフェの多様性などを学ぶ講座を開催した。</p> <p>⑤南三陸会場での事業②と同様の講座を開催した。</p>		

## 2. 生きがいつくり事業「コミュニティペーパー」制作講座

<南三陸会場>

実施日時：①平成 29 年 9 月 21 日②10 月 4 日③11 月 9 日 各 10 : 00～12 : 00

参加者数：①事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 2 名、受講者 5 名 合計 8 名

②事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 2 名、受講者 10 名 合計 14 名

③事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 2 名、受講者 10 名 合計 14 名

事業内容：①「フリーペーパーってどんな読み物？」を実施。復興支援フリーペーパー「FORTUNE 宮城」を参考に、コミュニティづくりや仕事への活用法を学ぶ講座を開催した。

②「取材の仕方や編集の仕方を学ぼう！」を実施。地元河北新報社の記者による取材の心得や、編集方法を学ぶ講座を開催した。

③「センスのいいカメラ技術を学ぼう！」を実施。写真で何を伝えたいのか？、記事にマッチする写真とは？、構図とは？といった内容を学ぶ講座を開催した。

<登米市会場>

実施日時：④平成 29 年 12 月 16 日⑤平成 30 年 1 月 20 日 各 10 : 00～12 : 00

参加者数：④事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 2 名、受講者 8 名 合計 12 名

⑤事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 2 名、受講者 6 名 合計 10 名

事業内容：④「掲載の特徴の捉え方・記憶に残る記事の書き方」を実施した。フリーペーパー「アルク」を参考に、店舗の特徴ある記事の作成方法や、キャッチコピーの使い方、読者が感じる良いキャプションの付け方などを学んだ。

⑤「取材の仕方や編集の仕方を学ぼう！」を実施し、実際の取材や編集方法を学ぶ講座を開催した。

## 3. しごとづくり事業「コミュニティビジネス開業講座」

<南三陸会場>

実施日時：①平成 29 年 9 月 20 日②10 月 19 日③11 月 8 日 各 10 : 00～12 : 00

参加者数：①事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 1 名、受講者 6 名 合計 9 名

②事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 1 名、受講者 12 名 合計 16 名

③事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 2 名、受講者 10 名 合計 14 名

事業内容：①「自分でやってみたい事発見ワーク」を実施。受講生それぞれの得意な事や、好きな事をノンジャンルで数多く発表し合い、他の人から見える自分を発見するワークショップを行った。

②「小さな仕事のはじめ方と続け方」を実施。大崎市にて実際に起業をした女性の事例を学んだ後、受講生個々のビジネスプランについてアドバイスを頂いた。

③「自分でやりたい事をまとめてみよう！」を実施。起業の動機、事業についてのスキル、経営者となる情熱や自信、家族等応援者の理解、セールスポイン

	<p>ト、売上高や利益などの見込みなどの準備や手順について講師よりアドバイスをいただいた。</p> <p>&lt;登米市会場&gt;</p> <p>実施日時：④平成 29 年 12 月 9 日⑤平成 30 年 1 月 13 日 各 10：00～12：00</p> <p>参加者数：④事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 2 名、受講者 10 名 合計 14 名 ⑤事務局 1 名、講師 1 名、スタッフ 2 名、受講者 8 名 合計 12 名</p> <p>事業内容：④「初めてのアグリビジネス」セミナーを開催。登米市に移住して農業で起業された方を講師にむかえ、農業での事業継続のポイントを学んだ。</p> <p>⑤「小さな仕事のはじめ方と続け方」を実施。すでに飲食店で起業されている受講生のこれまでの経過を元に、受講生全員で事業継続へ向けたブレインストーミングを行った。</p> <p><b>4. はじめの一步無料相談会</b></p> <p>実施日時：平成 29 年 9 月 2 日～平成 30 年 3 月 17 日の毎週土曜日 10 時～16 時</p> <p>相談者数：南三陸町会場 22 名、登米市会場 20 名 合計 42 名</p> <p>事業内容：コミュニティカフェをはじめとする地域に根差した事業での起業を志す方や、個人で開業を目指している方、また起業の意思がありながらも経済的理由等で実現できていない方々に対し、創業を実現させるための相談窓口を開設し、相談業務を実施した。相談内容に応じて、行政機関の支援策や専門家、金融機関を紹介した。</p> <p><b>5. フリーペーパー「まるまる」の制作</b></p> <p>実施日時：平成 30 年 1 月 10 日～平成 30 年 3 月 29 日</p> <p>事業内容：コミュニティペーパー制作講座の受講生を中心に、南三陸町民向けに現在の商店街の状況を伝える冊子を制作、配布し、商店街の大きな課題である地元住民の誘客と商店街を改めて見つめ直すきっかけとした。南三陸町の商店街と地域住民を繋ぐフリーペーパー「まるまる」は、3 号まで発刊し、各 4,500 部を受講生と商店街の協力のもとに行った。</p> <p>※平成 29 年度宮城県 NPO 等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金を活用</p>
<p><b>成 果</b></p>	<p>1. 昨年の講座実績も踏まえて、今年度コミュニティカフェが栗原市・気仙沼市・南三陸町・登米市の 4 か所で開設された。各地にて開設されたコミュニティカフェが、地域コミュニティの拠点や地域の居場所として機能し、多世代間の交流も生まれ始めている。平成 30 年度も南三陸町で新たにコミュニティカフェの開設が予定されている。</p> <p>2. コミュニティペーパー制作講座を受講した数名の自治会長達が自治会報を自ら発刊し地域コミュニティを繋ぐ役割を担い始めている。</p> <p>3. コミュニティペーパー制作講座の受講生を中心に南三陸町の商店街と地域住民を繋ぐフ</p>

	<p>リーペーパーが発刊され、商店街の大きな課題である地元住民への誘客と地元住民が商店街を改めて見つめ直すきっかけとなった。</p> <p>4. コミュニティビジネス開業講座の受講生の中から気仙沼市で2名、南三陸町で2名、登米市で1名の起業や第2創業者が生まれた。</p> <p>5. コミュニティビジネス開業講座の受講生による、意見交換を主としたサークルが自主的に組織され、月に一度程度定例会を行うようになっている。</p>
--	---

事業(2)	趣味講座及び各種交流事業	実施日時	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日
実施場所	登米市・南三陸町地内	従事者数	3人
受益対象者	震災被災者、地元住民 48名	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	震災により移住された方々と地元住民による交流イベントや講座等の各種事業を通じ、新しい地域コミュニティの形成を図る。		
事業内容	<p>編み物講座とサンキャッチャー、オリジナルキャンドル、布絵本づくり等みんなで楽しむ趣味の講座を1年を通して実施した。</p> <p>今年も沖縄から駆け付けていただいた「にじいろキラリ」様協力の下に開催したサンキャッチャーづくりは、15名を超える方々に参加いただき大変好評を得る事が出来た。また、昨年より隔週で実施している布絵本作りは、講師が毎月のように静岡から来てくださったこともあり、具体的な販売を検討するまでに完成度が上がっている。</p> <p>その他、震災直後より継続実施している4か所の仮設住宅での編み物講座や新作商品づくりも一年を通じて実施した。企業のノベルティ用で利用したいとの受注もあり、震災の風化防止に貢献する事業となっている。</p>		
成果	様々な趣味講座の実施は、心の安らぎと孤立防止につながる事業となり、震災被災者と地域住民の交流を促進することができ、新しい地域コミュニティの形成を図る一歩になった。		

事業(3)	「食が見つないで食が創る」コミュニティ形成事業	実施日時	平成29年7月1日～ 平成30年3月31日
実施場所	アルテラスおおあみ他	従事者数	4人
受益対象者	登米市民、南三陸町民	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	仮設住宅をでたあと、登米市に居を構えることとなった南三陸町の方々と、その周囲の登米市民とが理解を深めるために、南三陸町の食の暦や行事食、年中行事等を伺い、季節ごとに行事食などを再現し、交流会を実施する。		
事業内容	<p><b>1. 食の記憶の発掘</b></p> <p>南三陸町の行事食、季節の食事などを知るために志津川地区、歌津地区、登米市内に移住してきた方々に対しヒアリングを実施した。また、海と里の違いがあるか検証するために</p>		

登米市民にもお話を伺った。

<7月>

年中行事と行事食について①

・年越しとお正月、小正月      ・節分、彼岸、お盆、冬至

12日(水) 志津川地区1名    13日(木) 歌津地区3名    14日(金) 登米市内2名

18日(火) 志津川地区2名    19日(水) 歌津地区1社    20日(木) 登米市内2名

**【特記事項】**

実家・嫁ぎ先のどちらの味を継承しているかは、家庭によって異なっていた。

あわびを出汁にした雑煮。お正月の御膳は所有する船にも供えていた。

歌津の「ササヨ」については改めてお話を伺うことにした。

<8月>

年中行事と行事食について②

・桃の節句、端午の節句      ・初田植え、いっぷく(たばご)、直会、お刈り上げ

1日(火) 志津川地区1名    2日(水) 歌津地区1名    3日(木) 登米市内1名

22日(火) 歌津地区3名    23日(水) 志津川地区1名    24日(木) 登米市内2名

**【特記事項】**

お祝い事には「お餅」が食べられた。

たばごはその家の嫁の仕事ぶりの品定めでもあった。

お獅子さま、獅子舞も季節の行事として各集落に定着していた。

→集落でごちそうを作る。=団結力につながっている。

<9月>

保存食について

・きゅうり、トマト、大根、白菜の保存方法(漬物各種、切り干し大根など)

・魚介類、海藻の保存方法

御膳について

・お祝いの御膳

・ご法事の御膳

12日(火) 志津川地区1名    13日(水) 志津川地区1名    14日(木) 登米市内2名

19日(火) 志津川地区1名    20日(水) 歌津地区2名    21日(木) 登米市内2名

26日(火) 志津川地区1名    27日(水) 歌津地区1名    28日(木) 登米市内1名

**【特記事項】**

食生活改善クラブを通して、教えてもらったレシピが広く伝わっている場合があることがわかった。(新しい郷土食として定着している)

<10月>

四季の味について①

春の味→わかめ、山菜      夏の味→おくずかけ、ホヤ、マンボウ

海の暮らしについて①

3日(火) 歌津地区1社    4日(水) 志津川地区2名    5日(木) 志津川地区1名

10日(火) 歌津地区1名 11日(水) 登米市内1名 12日(木) 登米市内1名  
 17日(火) 志津川地区1名 18日(水) 登米市内3名 19日(木) 歌津地区3名

**【特記事項】**

南三陸でも漁業従事者と農業従事者では、暦感覚が異なることが明らかになった。  
 ウニの殻を田畑に入れて土壌改良をするという循環型漁業・農業の取り組みがあることを  
 知ることができた。

<11月>

四季の味について②

秋の味→きのこ、サンマ

冬の味→ドンコ、イカ、凍み大根

海の暮らしについて②

7日(火) 歌津地区1名 8日(水) 志津川地区1名 9日(木) 登米市内1名  
 20日(月) 歌津地区3名 21日(火) 志津川地区1名 22日(水) 登米市内2名

**【特記事項】**

イカ漁は八戸などから出航していた。  
 南三陸はドンコよりも、タラが好まれる。ドンコは内陸の人達(登米市内)が好む傾向が  
 あった。きのこや山菜など、山の様子を知るということは、津波が来た時の避難経路を知  
 るということでも有意義だった。

**2. 食の記憶の再現**

ヒアリングで明らかになった行事食の再現や、旬の素材を活かしたデモンストレーション  
 形式のお料理教室を通して、参加者の交流を図ると同時に、さらに関連した食の記憶を発  
 掘した。

<第1回お食事会「里帰りサーモンを北欧スタイルでいただく!」>

実施場所：タウンネットカフェ

実施日時：平成29年11月12日11:00~14:00

参加人数：16名

事業協力：浅野瑠美氏(料理・話題提供)

事業内容：フィンランドから一時帰国した佐沼出身の方に鮭やジャガイモを使ったフィン  
 ランド料理を作っていただいた。郷土料理とは異なるが参加者の皆さんは普段  
 食べなれている食材での新たな食べ方を知ることが出来て喜んでいました。  
 また、南三陸町で鮭の養殖に取り組んでいる方も参加していただき、震災後  
 の漁業の復興についてお話をしていただいた。

<第2回お食事会「こんにゃくづくり体験会」>

実施場所：アルテラスキッチン



実施日時：平成29年11月28日10:00~15:00



<p>参加人数：10名</p> <p>事業協力：高橋敬氏（登米市グリーンツーリズム協議会メンバー）</p> <p>事業内容：登米（とよま）の高橋さんが自家栽培したこんにゃく芋を材料に、こんにゃくづくりをした。参加者の中には、南三陸町の食改善グループの方もおり、高橋さんとこんにゃくづくりの技術について情報交換をしていた。</p> <p>&lt;第3回お食事会「せり鍋ランチ会」&gt;</p> <p>実施場所：アルテラスキッチン</p> <p>実施日時：平成30年2月11日10:00～14:00</p> <p>参加人数：12名</p> <p>事業協力：三浦隆弘氏（名取市せり農家）</p> <p>事業内容：登米市北方の伝統野菜「観音寺せり」を美味しく食べるため、仙台でブームの「せり鍋」を経験した。南三陸町でせりを栽培している方も参加し、今後南三陸町でもせり鍋を流行らせたいという話も出た。</p> <p>&lt;第4回お食事会「餅ご膳ランチ会」&gt;</p> <p>実施場所：タウンネットカフェ</p> <p>実施日時：平成30年3月17日10:00～14:00</p> <p>参加人数：15名</p> <p>事業協力：千葉静子氏（栗原市農家民宿経営者）</p> <p>事業内容：正月や、お祝い事に欠かせないお餅料理を、南三陸や登米よりも種類が豊富な栗原市の農家さんのご協力のもと、あんこ、じゅうねん、ふすべ、くるみ、ふすべ、雑煮の6種類を作っていた。</p> <p>※東日本大震災復興支援 JTNPO 応援プロジェクト助成金を活用</p>
---

事業(4)	益城町におけるワークショップ運営事業	実施日時	平成29年10月25日～ 平成30年2月20日
実施場所	熊本県益城町	従事者数	1人
受益対象者	益城町住民 約100名	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	熊本地震からの復興の取り組みに女性等多様な主体の参画を促進することを目的とするワークショップを開催する。		
事業内容	平成29年度被災地復興女性参画促進事業に係る益城町ワークショップ運営等業務を熊本県から受託し、運営した。 1. ワークショップは①平成29年11月16日、②12月14日、③平成30年1月11日、熊本県益城町にて下記テーマをもうけ開催した。 ①「今、困っていること、不安なことは何ですか？」 ②「10年後の益城のために、明日からできることは何ですか？」		

	<p>③「復興チームをつくろう！」</p> <p>2. ワークショップの当日あるいは翌日に、参加者や復興に取り組む団体について現地調査・助言等を各回とも2～3時間程度行った。</p> <p>3. ワークショップのファシリテーションについては、事前にくまもと県民交流館と打ち合わせを行い、プログラムを作成した。</p>
成 果	<p>益城町で活動している女性団体からの参加があり、今後の復興についてそれぞれの団体同士のネットワークをつくることのできた。また、宮城県内の復興に取り組む団体ともつながることができ、広域的な連携に発展することができた。</p>

事業 (5)	とめ女性支援センター運営事業	実施日時	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
実施場所	とめ女性支援センター他	従事者数	4 人
受益対象者	一般市民、不特定多数	事業分類	女性支援事業
事業目的	<p>各種イベント、セミナー、プログラム等を実施し、登米市一南三陸町を中心とする女性支援に携わる団体・個人のネットワークを形成し、利用者の増加を図る。また、常設の地域子育て支援拠点とするべく、子育て親子の交流を促進し、育児、保育に関する相談指導等について対応できるスタッフを養成する。</p>		
事業内容	<p><b>1. ベビーマッサージ&amp;ランチ会</b></p> <p>目的：肌と肌で触れ合う親子のスキンシップ「ベビーマッサージ」の方法や効果を学ぶとともに日頃、子育てに奮闘している母親たちの交流の場を提供する。</p> <p>実施日時：①平成 29 年 4 月 17 日 ②平成 29 年 6 月 27 日 10：30～14：00</p> <p>参加人数：①7 名 ②6 名</p> <p>講 師：高橋歩美氏</p> <p>事業内容：ベビーマッサージセラピストを招き、親子のスキンシップと赤ちゃんの発育を促すために行うベビーマッサージレッスンを実施した。赤ちゃんへの効果やマッサージ方法を学んだ後、出産して間もない子育て世代の悩み相談会や、情報交換、交流会の時間を設けた。ランチには、授乳中の体を考えて、登米市産米粉麺を使用した食事を提供した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p><b>2. 調香師が教えるアロマ講座</b></p> <p>目的：医療現場でも導入されはじめたアロマセラピーを日々の生活の中で活用することで病気予防と健康づくりにつながることを伝える。また、参加者の皆さんのリフレッ</p>		

シユ効果や交流を促進する事業とする。

実施日時：①平成 29 年 4 月 22 日 ②平成 29 年 6 月 17 日 10：30～12：30

参加人数：地域住民 ①5 名 ②4 名

事業協力：調香師・鈴木貴博氏

事業内容：調香師を招き、香りやアロマの効果についてわかりやすくひも解きながら、日々の生活習慣を原因とする不調をいくつかピックアップして、自宅でできるメディカルアロマを学んだ。好きなブレンドの中からコロンを作るワークショップを通して「好きな香りの本当の意味」や日本人には切っても切れないアロマの成分などを学び、様々な角度からホームケアアロマの知識を得た。



### 3. フラワーレッスン

目的：四季折々の花材を使ったフラワーアレンジメントレッスンを通して、子育て中の母親のリフレッシュを図ると同時に、地域住民も参加することにより多世代の交流を図り、子育て中の孤立化を防ぐ。

実施日時：①平成 29 年 5 月 6 日②6 月 10 日③7 月 8 日④8 月 5 日⑤9 月 9 日  
⑥29 年 10 月 14 日⑦11 月 11 日⑧12 月 16 日⑨平成 30 年 1 月 13 日  
各 10：00～12：30

参加人数：各 5 名～10 名

事業内容：地元のフラワーショップ「花りん」様のご協力のもと、毎月フラワーレッスンを実施した。



### 4. hug マルシェ

目的：「Café つむぎ」内に出店している小箱作家に加え、子育て世代の女性のお店が気軽に出店できるマルシェを実施することで、とめ女性支援センターhugの知名度向上を図り、地域における新たな賑わいを創出する。また、出店者や来場者の交流を促進する。

実施日時：①平成 29 年 5 月 27 日②9 月 2 日③11 月 23 日 10:00～15:00

参加人数：ハンドメイド作家 15～20 名 hug サポーター 3 名

一般来場者約 150～200 名

事業協力：市内ジュニアリーダー 8 名、大学生ボランティア 3 名

事業内容：ハンドメイド作品や地元農産品販売の他、各種キッズワークショップなどを同時開催し、住民参加型マルシェをジュニアリーダーや大学生ボランティアの協力のもとに実施した。



### 5. hug サポーター養成講座

目的：子どもがいることで学習や社会活動が制限されてしまう親たちが安心して子どもを預けながらスキルアップや社会参加ができるための一時預かりのできるスタッフや各種事業の運営協力者を育成する。

実施日時：平成 29 年 5 月 11 日 13:00～15:00

講師：足立千佳子氏

参加人数：10 名

事業内容：「女性の力を活かしたまちづくりワークショップ」と題し、とめ女性支援センターhugにおいて、子どもの一時預かりや各種事業の運営協力ができるスタッフを育成するための講座を開催した。

### 6. 夜 café

目的：日中は働いていてとめ女性支援センターhugへ来ることができない女性を対象に「夜café」を実施し、とめ女性支援センターhugの知名度向上を図り、地域における新たな賑わいを創出する。また参加者同士の交流を図る。

実施日時：平成 29 年 5 月 13 日、5 月 20 日、6 月 17 日 18:30～20:30



参加人数：地域住民 各 8 名

事業協力：(株)かのファーム鹿野紹子氏

事業内容：定員 8 名を募り、「甘酒」を使った発酵料理や地元食材を利用した料理を囲み、それぞれが抱えている暮らしの課題やその解決方法を共有することで仲間意識を醸成する事業とした。

### 7. パステルアート講座

目的：夏休み期間中、小学生を対象にパステルアート講座を実施することにより  
留守家庭の児童の見守りの一助とする。

実施日時：平成 29 年 8 月 9 日 10：30～12：30

参加人数：小学生 4 名

講師：小川美和氏

事業内容：とめ女性支援センターhug 運営協力者によるパステルアート講座を保護者が働きに出ている留守家庭や祖父母が面倒を見ている家庭の小学生対象に実施した。



### 8. ハーバリウム講座

目的：小箱BOX作家さんによるワークショップを通じて、作家さんのスキルアップを図る。また同時に、子育て情報を提供し、ニーズを吸い上げる。

実施日時：平成 29 年 9 月 26 日、10 月 19 日 いずれも 10：30～12：00

参加人数：地域住民 各 5 名



事業協力：小川美和氏

事業内容：定員 5 名を募り、ハーバリウムに対する基礎的な知識と技術を学び、作品を制作した。講師は小箱BOX作家さんに担当していただき、活動の幅を広げるきっかけを提供した。

### 9. 子ども・子育て支援研修

実施日時：平成 29 年 12 月 7 日 13：00～16：00

参加人数：法人スタッフ 2 名



事業内容：堺市役所、堺 kosodate つむぎ広場を視察した。堺市では子育て情報を「子育て支援情報（さかい☆HUG はぐネット）」として発信し、子育て広場も空き店舗利用や商業施設に設置するなど様々な形態を持っていることからその事例を学び、とめ女性支援センターhug での子育て支援の参考とした。

### 10. 子どもの一時預かり事業

実施日時：平成 29 年 4 月 1 日 ～平成 30 年 3 月 31 日

参加人数：各 1～8 名 従事者：法人スタッフ 2～4 名

	<p>事業内容：子育てママが各種イベントや講座の参加、PC 研修などで一時的に子どもの世話ができない場合や、育児リフレッシュしたいときなどに子どもの一時預かりを実施した。各団体からの出張要請にも対応し、一年をとおしての事業とした。</p> <p>※「登米市地域協働まちづくり事業補助金」を活用</p>
--	--

<b>事業 (6)</b>	南三陸と登米をつなぐ心のお料理教室	<b>実施日時</b>	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
<b>実施場所</b>	アルテラスおおあみ他	<b>従事者数</b>	2 人
<b>受益対象者</b>	登米市民、南三陸町町民	<b>事業分類</b>	震災復興支援事業
<b>事業目的</b>	登米市民、登米に移住してきた南三陸の方々、南三陸で暮らす方々、それぞれが一堂に会し、登米・南三陸の郷土料理や行事食を作り食べることにより、お互いの違いを認め合い、また、お互いのもつ食文化を学び合い、かつ交流を深めることを目的とする。		
<b>事業内容</b>	<p>1. 「山菜を美味しくいただく！」</p> <p>実施日時：4 月 24 日（月）10：00～14：00 参加者数：講師（小野寺ひさ子氏）他 15 名 場 所：アルテラスキッチン 内 容：米川地区の旬の山菜（たらっぼ、こごみ、わらび）を使ったお料理各種を教えていただいた。また調理の前に下準備として「はかま」をとる、とか、わらびの簡単なあく抜きなども教えていただいた。南三陸町の気候は、米川よりも暖かく山菜の量や種類も豊富だと伺い、後日案内していただいた。</p>  <p>2. 「田植えの「たばご」ってなあに？」</p> <p>実施日時：5 月 24 日（水）10：00～14：00 参加者数：講師（鹿野昭子氏）他 10 名 場 所：アルテラスキッチン 内 容：①田植えについて理解を深める～家族総出、集落総出の大仕事 ②さなぶり、なおらいをも視野に入れた「農事歴」と「食」 ③簡単にできるおやつ→普段から手作りおやつでつくるもの ④番外編：入谷のヨモギ凍みもちのお話 米川地区の旬の山菜（たらっぼ、こごみ、わらび）を使ったお料理各種を教えていただいた。また調理の前に下準備として「はかま」をとる、とか、わらびの簡単なあく抜きなども教えていただいた。</p> 		

### 3. 「野菜をたっぷり食べよう！」

実施日時：6月20日(火)10:00~14:00

参加者数：講師（阿部あい子氏）他10名



場 所：アルテラスキッチン

内 容：①この時期沢山収穫される（おすそ分けにもらう）トマトを保存

する方法

②ぬくもり工房（入谷）の味噌を使う

③さんさん館のご案内

④ベジタリアン、マクロビオティックについて

### 4. 「新鮮なホヤをさばいて食べよう！」

実施日時：7月20日(木)10:00~15:00

参加者数：講師（三浦さき子氏）他18名

場 所：農漁家レストラン慶明丸（南三陸町戸倉）



内 容：採れたてのホヤをさばくところから始めた。栗原や仙台からの参加者もいて、初めてさばく方も多く、講師のさばく手元に目が釘付けになった。ホヤが苦手という方もいたが、新鮮なホヤで、とてもおいしいと好評だった。また、炊き込みご飯や酒蒸しなど、火を通したメニューはあまく、他では食べたことがない！と、驚きの声があがった。

### 5. 「おくずかけとおふかしを作ろう！」

実施日時：8月8日(火)10:00~15:00

参加者数：講師（菅原悦子氏）他10名

場 所：アルテラスキッチン

内 容：お盆に食べるお精進料理・おくずかけや、おふかしの作り方を教えていただいた。



おくずかけは南三陸町入谷では季節の野菜をふんだんに入れるのが特徴。

登米市内では油麩を入れる、仙台では白石温麺を入れるなど、地域の違いが話題にあがった。

おふかしの仕上げの「すとぶつ」方法もじっくり教えていただいた。

6. 「たみこの海パックでしっとりふりかけを作ろう！」

実施日時：9月5日（火）10：00～14：00

参加者数：講師（阿部民子氏）他8名



場 所：アルテラスキッチン

内 容：震災後、漁業で地元を復興させたいと考えた民子さんは、かつてやっていた通信販売の経験を活かし、南三陸町の特産物を仕入れ詰め合わせにしてネット販売を開始。乾物の袋詰めなどで地元の雇用を創出している。わかめやめかぶが海の中でどのように生えているか、わかめ漁、開口のことなど、参加者は大変興味深く聞いた。

7. 「こんにゃくづくり教室」

実施日時：10月30日（月）10：00～14：00

参加者数：講師（高橋敬氏）他14名



場 所：アルテラスキッチン

内 容：こんにゃく芋の栽培の様子や、こんにゃくを作って産直で売っている話などを伺う。関連して加工の話や、農業体験の受け入れ（小中学生のグリーンツーリズム）など、登米の農家さんの取り組みについて理解を深めた。芋煮汁などのお昼ご飯は参加者で手分けをして野菜を切り、共同で作った。

8. 「しゅうり貝尽くしのお料理を作ろう！」

実施日時：11月14日（火）10：00～15：00

参加者数：講師（三浦さき子氏）他12名

場 所：漁家レストラン慶明丸（南三陸町波伝谷）

内 容：養殖の牡蠣の殻についていて、この時期にはよく食べられる「しゅうり貝」。南三陸町では当たり前で食べられているが、登米ではなじみが薄い食材である。漁家レストラン慶明丸の女将さんに、さまざまなしゅうり貝の食べ方を教えていただいた。慶明丸の復活の経緯や、集落の再生などについてもお話をいただいた。

9. 「はっとを作ろう！」

実施日時：12月6日（水）10：00～14：00

参加者数：講師（富士原節子氏）他8名

場 所：アルテラスキッチン





内 容:登米といえばはっと！元々はお盆の精進料理だったが、はっとフェスティバルが12月に開催されるようになってからは、むしろ冬の郷土料理として定着した。地元のイベントやはっとフェスティバルでも大活躍の北方のみなさんが、はっとの練り方、摘みかたを、丁寧に教えてくださった。

10. 「お餅づくしのお膳料理を食べよう！」

実施日時：1月19日（金）10：00～14：00

参加者数：講師（千葉静子氏）他6名

場 所：農家民宿たかまった（栗原市）

内 容：行事食として「餅料理」は欠かせないハレの食事である。



餅料理について教えていただける方を探したところ、栗原市在住の千葉さんのが適任であることが分かり、お願いした。千葉さんをはじめとする宮城グリーンツーリズムの皆さんが慶明丸の三浦さんの支援をしていたことや、お互いに支え合った仲間として、発災当時の苦労話なども「今だから」できることとして話題に上がった。

11. 「手前味噌を仕込もう！」



実施日時：2月13日（火）10：00～14：00

参加者数：講師（菅原悦子氏）他6名

場 所：アルテラスおおあみ実習室

内 容：発酵食として欠かせないみそ。震災後、南三陸復興のために立ち上げたふれあい工房のみなさんのご協力のもと、みそづくりを行った。

12. 「春告げわかめをいただこう！」

実施日時：3月6日（火）10：00～15：00

参加者数：講師（三浦さき子氏）他8名

場 所：漁師レストラン慶明丸

内 容：1～3月が最盛期のわかめ漁について教えていただき、とれたてのワカメ料理を作った

※(公財)浦上食品・食文化振興財団 東日本大震災復興支援事業支援金を活用

事業(7)	まちなか創業チャレンジャー支援事業	実施日時	平成29年7月3日～ 平成30年2月28日
実施場所	法人事務所及びアルテラスおおあみ	従事者数	2人
受益対象者	開業直後の創業者及び起業希望者	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	開業の意思がありながらも経済的理由等で実現できていない方に対し、創業を実現させるための支援体制をソフト・ハード面から地元商店街組織と連携しながら構築し、地域における起業・創業の促進と雇用創出を図ることを目的とする。		
事業内容	<p><b>1. チャレンジショップ入居者に対するフォローアップ支援</b></p> <p>チャレンジショップ出店者の売上高を向上させるため、個別での「マーケティング活動」、「ライバル店との差別化」、経営者として努力を継続していくという「マインドの醸成」、さらには、自店のセールスポイントを活かしつつも「販路の拡大」と「新商品の投入」の方向でいかに売上を上げるかを考え抜くといった内容のコンサルティングを実施した。また、各店舗の紹介チラシの制作・配布を実施し、誘客の支援を実施した。</p> <p><b>2. 起業イベント・交流会の開催</b></p> <p>登米市及び近隣の市町村において創業を考えている方や創業後2年未満の方、また、第二創業的に新たな事業展開を考えている方を対象に、事業を行う上で必要となる知識を得るためのセミナーと実際の店舗運営を通じてスキルを高めるための模擬店を開催した。模擬店については、プレミアムフライデーの実施に合わせ、「月末」の「金曜日」を軸に、情報交換やネットワークづくりのための交流会を兼ねて「おおあみナイトマーケット」と称して毎月実施した。</p> <p><b>3. 創業希望者及びチャレンジショップ・チャレンジカフェ出店者支援</b></p> <p>「創作中華料理」の開業希望者をはじめ、チャレンジショップ・カフェを利用しながら創業・開業を目指す方に対し、</p> <p>①開業動機の確認 ②事業についてのスキルの確認 ③経営者となる情熱・自信の確認 ④家族等応援者の理解の把握 ⑤従業員確保について ⑥セールスポイントの確認 ⑦売上高や利益などの見込み ⑧事業計画の作成</p> <p>などの準備や手順についてアドバイスを行った。</p> <p>また、店舗を紹介するチラシの制作・配布による告知・販売促進活動を実施した他、金融機関の紹介と資金調達のための具体的なサポートを行った。</p> <p><b>4. 創業を行う者への助成</b></p> <p>「アルテラスおおあみ」内の空き店舗を活用して開業した創業希望者に対し、厨房機器調達、運営アドバイス等を実施し、これに要する経費の間接補助を実施した。</p> <p>※「平成29年度宮城県まちなか創業チャレンジャー支援事業費補助金」を活用</p>		
成果	店舗運営のスキルを向上させるとともに、1者の創業を実現し、地域における創業の促進と雇用の創出を図ることができた。また、毎月開催した「ナイトマーケット」は、創業者		

	同士のコミュニケーションを深めることに繋がり、経営者として努力を継続していくという「マインドの醸成」に寄与することができた。
--	--

事業 (8)	子育て女性就職支援拠点育成事業	実施日時	平成 29 年 10 月 1 日～ 平成 30 年 2 月 28 日
実施場所	とめ女性支援センターhug	従事者数	4 人
受益対象者	子育て女性の就業希望者	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	子育て女性の就職支援が手薄な環境下、とめ女性支援センターhug が、自立的・継続的に当該支援を行う民間拠点として機能するよう育成する。		
事業内容	<p><b>1. 男女共同学びあい・語り合い事業</b></p> <p>①男女の偏見のない誰もが生き生きと生活する事が出来る地域づくりと暮らしをテーマとした「パパママ一緒に地域の暮らしセミナー」を男女共同参画に対する専門の講師を招き、子育て女性お仕事フェスの開催時に実施した。</p> <p>②日頃の子育てに於ける悩みや、課題等を語り合う場として、「パパママ一緒に子育てワークショップ」を専門のファシリテーターの協力の下、ワールドカフェ形式で実施した。</p> <p><b>2. 子育て女性サポートセミナー事業</b></p> <p>①人材育成手法であるコーチングのタイプ別診断法を活用しながら、自分自身や自分らしさを改めて知り、自分の将来像を具体的に考える為の「子育て女性の私らしさ診断セミナー」を開催した。</p> <p>②自らが希望する働き方や職種を改めて考え整理し、長期間取り組むことのできる仕事のあり方を学ぶ「子育て女性の働き方セミナー」を、キャリアコンサルタントを迎えて実施した。場合によっては必要な資格の取得方法や資格の活かし方、また自らのスキルを活かした働き方を再確認する為の場とした。</p> <p>③就職活動を進めるにあたっては、面接時の態度・対応や会話法等が大変重要であり、会話を通じた第一印象の向上と、相手が快く思うホスピタリティ術を学ぶ「子育て女性の会話力・マナーアップセミナー」を専門の講師を招き実施した。</p> <p>④PC の基礎スキルは必須であり、この傾向が益々広がっていくことから「子育て女性のPC 講座」を実施した。</p> <p><b>3. 地域女性との繋がりづくりと人材育成事業</b></p> <p>①「とめ女性支援ネットワーク」の設立</p> <p>子育て女性への継続的な就職支援に取り組んでいく為には、地域内の様々なセクター(行政・ハローワーク・商工会女性部等)との情報共有や課題発見等での協働が必要と考え、支援人材の育成とネットワーク構築のための「とめ女性支援ネットワーク」を設立した。</p> <p>②子育て女性お仕事フェスの開催</p> <p>登米市内に住む多くの子育て女性が「お仕事」をキーワードに、各種セミナーや、子育て</p>		

	<p>女性の雇用を予定している地元企業とのお仕事マッチングコーナー、子育て女性達によるハンドメイド雑貨やスイーツの販売やワークショップ、ミニマルシェ等、家族そろって参加でき、一日を通じて楽しめる催しを開催した。</p> <p>③就労支援員人材育成事業</p> <p>子育て女性による就職相談を随時受け付けるために、専任スタッフを配置した。また、専門的なキャリアコンサルティング技術を取得する為、CDA 講座等を受講し、多くの子育て女性の就職課題解決に向けて、子育て女性就職支援拠点としての役割を果たしていく事の出来る人材を育成した。</p> <p>※平成 29 年度宮城県子育て女性就職支援拠点育成補助金を活用</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登米圏域内の子育て女性に向けた就職に関する情報を発信した。</li> <li>・各種セミナーを受講して頂く事により、それぞれの適正にあった職業の発見や、自らのスキルアップに繋げる事ができた。</li> <li>・ワークショップやフェスに参加する事により、女性の社会進出による地域の活性化や、経済的な面に於ける子育て女性の就職の必要性を理解できた。</li> </ul>

事 業 (9)	小箱BOX支援事業	実施日時	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
実施場所	とめ女性支援センターhug 他	従事者数	3 人
受益対象者	レンタルボックス利用者 24 名	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	手仕事による身の回り品の販売支援を通じて、東北の暮らしの知恵を発信するとともに被災地での女性の仕事づくりを支援する。		
事業内容	とめ女性支援センターhug に設置された小型の販売展示レンタルBOXに出店する、女性手作り作家に対し、イベントやワークショップ開催のPR、販路や商品のブラッシュアップ等の支援を実施した。		
成 果	手仕事による身の回り品の販売支援を通じて、東北の暮らしの知恵を発信するとともに被災地での女性の仕事づくりを支援できた。		

事 業 (10)	移住・定住推進連携事業	実施日時	平成 29 年 8 月 3 日～ 平成 30 年 3 月 9 日
実施場所	東京都目黒区・世田谷区	従事者数	4 人
受益対象者	登米市民	事業分類	シティプロモーション事業
事業目的	登米市の魅力を首都圏において発信し、ヒト・モノ・カネを呼び込み地域経済を活性化させるとともに登米地域の一体感を醸成させる一助とする。		

**事業内容**

**1. 登米産食材生産者と消費者との交流会**

実施日時：平成 29 年 9 月 30 日、10 月 28 日、12 月 9 日

実施場所：東京都世田谷区駒沢の駒沢 310 サンイチバル

参加人数：53 名（うち移住者 2 名、移住希望者 8 名）

事業内容：東京と登米市を繋ぐ交流会として「ととと交流会」を 3 回開催した。9 月と 10 月の開催時には登米市の地域づくり策定委員に登米市の豊かな自然や生活状況、農業や食についてお話しいただき、登米市の素晴らしさを参加者に伝えた。12 月 9 日には、登米市に移住して就農した「おかやち農園」の三上氏にお越しいただき、登米市に於いて就農に至ったプロセスや、現在の生活状況、農業を仕事とした理由など多岐にわたってお話しいただいた。

参加者の中には登米市にて就農を希望している方もいて、農業で収入を上げていく手法や、作付け内容など熱心に聞き取っていた。また、登米市出身のオーナーシェフ佐藤氏の作る登米産食材を使用したオリジナルのイタリア料理は大変好評で、登米産食材の魅力を直接感じていただく事が出来た。

今回の交流会の集客方法については、オーナーシェフの佐藤氏のお声がけと、弊法人と関係を持つ首都圏の方々への声がけ、及び、フリーペーパー「ととと」の配布を中心に告知したが、みやぎ移住サポートセンター様や、みやぎ暮らし相談センター様のご協力を頂いたことにより、より多くの方々に告知する事が出来、事業全体に広がりが出て大変いい結果に繋がったと感じている。



成 果：本イベントに於ける移住定住希望者の掘り起こしについては、気軽に参加しやすい交流会としたことにより概ね目標に近い参加者を募ることが出来た。しかし現実的に移住した方は 2 名となり、移住定住者拡大の厳しさを改めて実感した。また、登米市への移住定住希望者は 8 名と移住定住先の選択肢として理解いただく事が出来、今後に常がる結果となった。

**2. 登米市職農マッチング**

事業名：①「登米市はつとフェス in 自由が丘」



②「ウインターコラボフェス・宮城県登米市おしごとマッチング」

実施日時：①平成 29 年 12 月 2～3 日 ②平成 30 年 2 月 11～12 日

実施場所：東京都目黒区自由が丘

	<p>参加人数：①670名 ②1,200名</p> <p>事業内容：①自由が丘ひかり街のイベント「サンクスリバティ」に於いて「はっとフェス」を開催し、はっと汁の提供と登米市PR動画「登米無双2」の上映会、移住定住パンフレット「とめ暮らし」の配布活動を実施した。</p> <p>②自由が丘ひかり街のイベント「ウインターコラボフェス」に於いて登米市を代表する郷土料理「はっと汁」や地酒、赤豚等、登米市の食の魅力を多くの都民の皆様に伝え、移住や交流人口増加のきっかけとした。また、登米市を代表する食品企業3社(マルニ食品・石越醸造・伊豆沼農産)にブース出店を依頼し、登米市の食を通じた仕事について広くPRする場を提供した。</p> <p>成果：本イベントに於ける登米市の魅力発信と移住定住希望者の掘り起こし、登米市の食を通じた仕事への理解については、自由が丘ひかり街のイベントと協働したことにより来場者は1,000人を超え、たくさんの方に登米市を知って頂く事にはつながった。おしごとマッチングに訪れた方々は12名であり、登米市での仕事に興味があるというよりは、食を通じた各企業の取り組みについて関心があるようで、各企業の先進的な商品開発や地元食材の有効利用等、登米市企業の先進性に対し理解を得る事が出来た。</p> <p><b>3. 登米市移住定住シンポジウム</b></p> <p>実施日時：平成30年2月22日</p> <p>実施場所：東京大学駒場キャンパスコラボレーションルーム1</p> <p>参加人数：30名</p> <p>事業内容：今回の移住交流連携推進事業を実施するにあたり、多くの助言やアドバイスを頂いた3名の有識者の方々にパネリストをお願いし、第1部「東京都から見る魅力ある地方とは」のテーマの下、それぞれの意見を伺った。また、第2部では東京大学大学院人間の安全保障プログラムの大学院生による、登米市聞き取り調査報告会を開催し、登米市が人間の安全保障が確立した地域である事を再確認する場となった。参加者は移住定住に直接的にかかわる事業ではなかったが、シンポジウムでの意見を通じて今後取り組むべき課題や、新たな移住定住策が垣間見られた。</p> <p><b>4. 登米市小冊子フリーペーパー「ととと」発刊</b></p> <p>発行時期：平成29年8月、平成29年11月、平成30年2月 各3,000部</p> <p>配布箇所：東京都内160か所</p> <p>参加人数：27名</p> <p>事業内容：移住定住に対する登米市の情報や、東京都内で開催される各種イベント情報を掲載した小冊子フリーペーパー「ととと」を3回、各3,000部発刊した。配布方法については東京都内160か所に配布箇所を設ける事ができ、登米市を広く</p>
--	---



	<p>知って頂くことが出来た。</p> <p>フリーペーパーの掲載内容については登米市の紹介記事や、「ととと交流会」、「お仕事マッチング」等のイベント情報、登米市の移住体験ツアー報告、移住された方々のクローズアップ記事等、限定された紙面数ではあるが最大限最新の情報を盛り込んだ。</p> <p>成果：今回の取り組みにより 160 か所ものフリーペーパー配布箇所を首都圏に確保することが出来たのは極めて貴重な事であり、今後の首都圏にて行われる各種プロモーション時の PR ポイントとしての活用が大いに期待出来る。</p> <p>※平成 29 年度みやぎ移住・定住推進連携事業業務</p>
--	--

事業(11)	シティプロモーション事業	実施日時	平成 29 年 10 月 8 日～9 日 平成 29 年 11 月 11 日～12 日
実施場所	東京都目黒区自由が丘地内	従事者数	4 人
受益対象者	登米市民	事業分類	シティプロモーション事業
事業目的	登米市の魅力を首都圏において発信し、ヒト・モノ・カネを呼び込み地域経済を活性化させるとともに登米地域の一体感を醸成させる一助とする。		
事業内容	<p>東京都目黒区の自由が丘において開催された商店街イベントにてブース出展し、登米産の物産販売を実施した。商店街イベントでは抽選景品に登米産米やリンゴを使用していた。また、自由が丘商店街振興組合の役員の方々と登米産特産物の消費拡大を図るための打ち合わせを実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
成果	<p>自由が丘で開催されている「自由が丘女神まつり」等への出店は 6 年目になり、登米産の「牛串」や登米産米と自由が丘のコラボレーションから生まれた「ホイップるん米」はかなり認知されてきたように思う。しかしながら、弊法人の財源や地域経営の観点から、行政やより多くの市民を巻き込むにはどうしたらいいのか、イベント時だけでなく継続的な取引拡大について、行政や J A の支援を取り付ける等検討が必要である。</p>		

事業(12)	ばけつ畑部プロジェクト	実施日時	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
実施場所	登米市米山町かのファーム	従事者数	3 人
受益対象者	登米市民及び仙台市民、南三陸町民	事業分類	シティプロモーション事業
事業目的	農業体験を通し、登米市民と他地域の人々が交流を楽しみながら、一年を通じて実践できる都市と農村の交流のモデル事例を構築する。		
事業内容	登米市米山町かのファームの畑をお借りし土づくりから種まき、肥料や水播きなど様々な野菜の育て方や1つ1つの作業の意味を学びながら、収穫、調理まで、10人程度の参加者のもとに、毎月第4土曜日の定例部活として実施した。		
成果	登米市内外の参加者と米山の農家との交流を深めることができた。また参加者が登米の第一次産業の魅力をSNSで広く発信していただいたのも成果である。		

事業(13)	とめ市民活動プラザ運営事業	実施日時	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日
実施場所	とめ市民活動プラザ	従事者数	5 人
受益対象者	下記各団体	事業分類	中間支援事業
事業目的	協働によるまちづくりを推進するため登米市が設置している「とめ市民活動プラザ」の運営を受託し、市民活動に関する情報提供や各種相談、多様な主体と協働した仕組みづくりや人材育成などを実施する。		
事業内容	<p><b>1. 市民活動に関する情報の収集、提供及び発信業務</b></p> <p>(1) 機関紙「ぶらっと・とめ」の発行・配布 (6月、9月、12月、3月)</p> <p>(2) コミュニティFMによる情報の発信 (まるっと!とめ Like は45回放送)</p> <p>(3) 県内外のNPO・市民活動団体等の活動情報の収集及び提供</p> <p>(4) NPO・市民活動団体等のデータベース管理</p> <p>(5) 地域課題の解決を図る取り組みの情報収集及び提供</p> <p>(6) 窓口スタッフによる各種相談対応、情報提供、案内</p> <p><b>2. NPO・市民活動団体・コミュニティ組織等への支援業務</b></p> <p>(1) ホームページ等による情報発信</p> <p>(2) 市民活動団体等の交流会の開催 (2回開催、参加人数31名)</p> <p>(3) 無料専門相談会の開催 (12回開催、相談件数33件、窓口相談対応62件)</p> <p>(4) 地域づくり計画の実践支援及び各種相談業務</p> <p>(5) NPO・市民活動団体等のイベント協力や取材</p> <p>(6) NPO・市民活動団体等と行政との連携、協働の推進</p> <p>(7) 市民活動支援に関する調査、研究、支援</p> <p><b>3. 人づくり・人材育成支援業務</b></p> <p>(1) 人材育成講座の開催 (5回開催、参加人数134名)</p>		



	<p>(2) 労務・会計講座の開催 (2 回開催、参加人数 25 名)</p> <p>(3) 市民活動に関する講座の開催 (3 回開催、参加人数 124 名)</p> <p>(4) スタッフ研修 (各種研修及び会議の参加 43 件)</p> <p><b>4. 施設の運営に関する業務</b></p> <p>(1) 施設案内及び利用者への対応 (交流・会議スペースの利用者 1,263 人)</p> <p>(2) 施設及び設備 (印刷機等) の利用への対応</p> <p>(3) 利用者状況資料の作成・報告 (月次・年次)</p> <p>(4) 施設設備の管理に関すること</p> <p>(5) 職員体制の計画・労務管理</p> <p>※別紙、とめ市民活動プラザ年次報告書参照</p>
<p><b>成 果</b></p>	<p>幣法人での運營業務の初年度にあたり、とめ市民活動プラザの周知拡大と利用促進を目指し取組んだ。また、各団体の運営サポートや事業実施のコーディネートにおいて努力したが、施設利用者数においては前年比約 3%のプラスに留まり、更なる努力が必要と反省する。ただ、プラザ業務の柱のひとつである情報発信では、市内のコミュニティ組織及び NPO 団体等の取組みを数多く収集し発信することにより、プラザの周知にも確実に繋がってきていると感じている。次年度以降も各団体の役に立てるよう精力的に行っていききたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="395 996 817 1400" style="text-align: center;">  <p>↑ウェブサイトトップページ</p> </div> <div data-bbox="842 1025 1380 1400" style="text-align: center;">  <p>↑機関紙ふらっと・とめ</p> </div> </div>